

管内養豚場における豚熱ワクチン接種適期の検討：

岡山県井笠家保 蛇島武久

豚熱予防対策のため、50～60日齢の子豚にワクチン接種（以下、接種）をしていた管内一貫経営A、B養豚場で、免疫付与状況確認検査に基づく接種適期指導を実施。A養豚場では令和3年10月、30日齢子豚5頭中4頭で推定移行抗体価が2倍未満と判明したため、免疫空白期間を考慮し接種時期を35～42日齢に早めた。しかし、令和4年5月に肥育豚の抗体陽性率が62.9%と80%を下回ったため、ワクチンを追加接種。以降接種を40～50日齢に変更。B養豚場では令和4年12月に肥育豚の抗体陽性率が100%となり子豚の接種時期が遅いと推測。13～55日齢の子豚41頭の移行抗体調査を実施し、全個体で30日齢の推定移行抗体価が32倍以下と判明したため、接種を30～40日齢に変更。今後も、定期的なモニタリングによる効果確認と接種適期推定の精度向上を図るとともに、飼養衛生管理向上による感染リスク軽減についての指導を継続し、効果的な豚熱対策を進める。